

(自動車の輸送)国産車の輸出について

富山県高岡市立福岡小学校 原野 克憲

1 はじめに

自動車ができるまでの流れについて、子どもたちは愛知県豊田市にある工場を例に学習を進めてきている。地図帳を活用して、完成自動車がどこから、どのように、そしてどこへ運ばれて行くのかについて話し合った実践例を述べる。

2 完成自動車はどこに置くの？

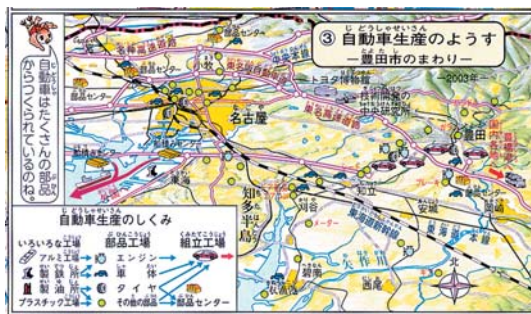
「完成自動車はどこに置くのだろう」と投げかける。「まずは工場の敷地だよ」「豊田市にある組立工場でしょう」との子どもたちの発言を受け、全員で地図帳を使って調べる。子どもたちは地図帳p.32を開き、豊田市周辺に3つ、田原市に1つある自動車の絵を確認し「ここかな」とつぶやく。また、この絵が組立工場かはっきりしないという子どもたちは、p.33の豊田市周辺に注目し、つぶさに読み取り始めた。「自動車部品、タイヤの絵の分布から考えると、きっと4か所の自動車の絵は組立工場ではないかな」との発言がでる。地図にある自動車に関する情報の違いから組立工場を探す子どもが出てきた。

さらに、子どもたちはp.34「自動車生産のようす—豊田市のまわり—」から、「いろいろな工場」「部品工場」「部品センター」「組立工場」についてさらに詳しく表された分類と部品の流れ（青矢印）に着目し、完成車は組立工場に置かれると確信した。

3 完成自動車はどこへ、どのように運ばれるのか？

新たな疑問がわいてきた。「完成車はどこに運ばれるの？」が生まれる。「お客さん」「消費者」と反応する子どもたちに、「それはどこからわかるのでしょうか、この地図資料（p.34③）から考

えましょう」と投げかける。子どもたちは、地図にある自動車道や高速道路の名前を挙げながら、「日本中の消費者に輸送されるよ」「国内各地へ、豊橋港へ（赤矢印）とあるから、トラックを使って目的地まで輸送される」と考えた。また、「外国へ（赤矢印）とあるから、港から輸出されるよ」「たくさんの自動車を一度に外国まで運ぶのだから、輸送方法は船だよ」などと話し出す。この発言を受け、「海の近くに船積みセンターが2ヶ所あるよ」「自動車積み出し基地（p.33）とも表してあるね」と輸出するための基地を経由していくことも、新たに見つけ出す子どもも出てきた。自動車を輸送するには、交通網との関連が深いことをとらえていった。



帝国書院「小学生の地図帳」（初訂版）p.34

4 完成自動車の輸出国は？

完成自動車を輸出するとらえた子どもたちは、「どこへ輸出するのだろうか」という興味をもっている。予想した後、p.61「①おもな工業製品の輸出」の資料を基に、日本の自動車が世界中に輸出されてる事実をとらえていった。

5 おわりに

地図帳を活用して、完成自動車の輸送について考えると、「工場の立地条件、生産地と消費地、輸送方法、輸送経路および距離、交通網、世界との結び付き」などの点から日本の工業の特色が見えてくる。視覚に訴えることができる地図のよさを十分に生かした学習を工夫したい。